



後代集卷之二





徒然草諺解卷一

序

それ人の天然乃心明なる鏡のこと
 我ら秋月と似るると寒山子乃以へる
 耳よりさきりて笑へるされと利と名
 のやうのまことひて一生あつちりす
 を形の後とすれを陶淵明のかたむけと
 よむへりすや佛書五百函傳教十三
 強道家ふかの篇ふらの一字と説く
 され我國乃神居も亦あつちりす



その跡を踏て力を洛東の山脚に退て
つぎくのすまひは志と筆よまのせを
一 部の要領と究一人として名刺の法欲
をまらぬ男ふと安樂さうしめん事を
わらへるまたまの人もあそまをさる
らんや惟晴の海浪さうしして九羽人所
をゆるるまかろのわらよ王宮國都よる全同巷
よいふるもして貴賤男女よようす書とよむ
事とよめり今志は三百年前の草子啖
啄同時乃其あつたれて作者の功人も

めて志まらるは是則怪窩翁よるまこみかたの法家
の誰かて其志と發めしむまらるは僕もさる
寛文丙午の年新註とさるして世よめり
ハハ作り記僭踰の罪人ゆきしてよき一今
年よ無月事ありて末師よのびりぬいと
はの日書とさる一園作りやよは比板行せ
とて文段抄鐵槌増注諺解の三書とさ
て乃せりその述者とならぬまの文段抄ハ
季吟増注ハ元隣諺解ハ南部草壽といへり
季吟ハ園よりとせり吟人もまらる

元隆ハ其功つとありて獨諺解は穿鑿ちり
ず易直にりして尤初学の助とちるべし草書ハ
當世儒学と以て却るべきを後解ハ其結
餘ち自と善好のありんば世の楊子雲とを
いふを

寛文九己酉初秋の日尾陽清水春流筆を
洛陽の旅館より傳へたるものなり

此徳然草ハ世人の知るごとく吉田の兼好法師の
作らばあり兼好ハ後宇多院醍醐天皇後醍醐天皇の清
宇多院後醍醐天皇宇多院後醍醐天皇に仕て小西に侍り
て俗名を左某の依兼好と号す然るに後宇
多院崩御の後遠遊して洛陽東山吉田に閑
居し俗名を改め兼好と呼是も以草子草子此奥
よ云へふこととて此乃号するぬ此名と奇異大
を好め尚をそし是流に言行お叶利今吉田
よ兼好が旧跡あり

△兼好が生平たし記せり書ふし或曰弘安
五年よ生と観應元年四月八日六十八歳に
一卒す高野山西光院に今よたわて位牌あり

いふは傳ふ墓ハ双窓ありあるをいふ及ぶにあり
ておれ人の為のされども今ハある人あり兼好が家
集よあつひの思よ無常亦まうけてさうく様と
うへさせて

ちまうと花とおびの思のまよふれしつゝの喜とさくさん
△兼好ハ天台此學よまよふ一且儒經を學び殊よ老庄
此を好みふ人なり神道ハむその家もまよふく
く其奥旨を知と奇居にも通して其此海
辨考運阿兼好とて和歌此四天王と云ふ一者
なり末の集よ多載王手跡も世よまよふ一
△扱此書と佛者が讀ばむく教あり云ひたると
儒者ハ海ナレハまよ五常此旨よとりあ

者は詞花言葉と云ふて奇のまよふ云ひ課とこれ皆然
いへる兼好の心いづれをいへる人のおとら
るまよと別ひ珍よとのまよ々々を云ひあつと
す然もハ三教一致と云ふ畢文のまよハ人間常位
の思ひと云ふて無常變易の旨を認して一教
をあつる者なりこれハ説去説來と云ふれはわ
ゆなりはかまを以て全部以て人一赴道ハ
吾惡二川の外か一吾と勸惡と懲いゆめあつ
ばいつまを是と一いつまを非とせんやまよ作を
一偏よ泥へる
△徒然許氏説文は徒ハ空也と經と然ハ助縁あり
又まよ名ハ伊勢物終ハ徒然とあり是空の字ハ

衡^り吐^ひ里^りま^まさ^さな^なさ^さひ^ひき^きと^と計^けら^らぬ^ぬて^てハ^ハ此^こ草^{くさ}子^この^の
 味^{あじ}あ^あさ^さり^り常^{じょう}よ^よゆ^ゆら^らん^ん或^{ある}ハ^ハ友^{とも}も^も同^{どう}ま^まぬ^ぬ獨^{ひとり}居^い或^{ある}ハ^ハ
 山^{さん}林^{りん}あ^あら^らの^の人^{ひと}目^め希^{まれ}な^なふ^ふを^をう^うて^て云^いへ^へり^り是^{こゝ}ハ^ハこれ^{これ}ハ^ハ
 あ^あら^らへ^へり^りす^す太^{たい}平^{へい}記^きの^の時^{とき}分^{ぶん}と^と考^{かん}へ^へる^るハ^ハ六^む十^{じゅう}餘^ご州^{しゅう}志^しく^く
 え^えれ^れて^て子^こと^として^{して}ハ^ハ父^{ちち}ハ^ハ替^か臣^{しん}と^として^{して}ハ^ハ君^{きみ}と^と殺^{ころ}す^す世^よ
 ぶ^ぶる^るハ^ハ世^よ間^{かん}ハ^ハ兼^{かね}好^{こう}う^う交^まひ^ひへ^へま^ま友^{とも}な^なく^くして^{して}吉^{きち}田^{でん}の^の山^{さん}中^{ちゆう}
 ハ^ハ世^よを^をの^のも^も獨^{ひとり}樂^{らく}し^しと^とう^うふ^ふより^{より}此^{こゝ}草^{くさ}子^こと^とう^うき^き異^い
 せ^せり^り然^{しか}も^もハ^ハ世^よ間^{かん}ハ^ハ社^{しゃ}して^{して}の^の徒^た然^{ぜん}な^{なり}り^りハ^ハ孤^こ周^{しゅう}易^ぎハ^ハ
 寂^{さび}然^{ぜん}不^ふ動^{どう}と^と云^いへ^へふ^ふを^を以^もつ^つて^て思^{おも}へ^へり^りた^たと^とハ^ハ布^ふ町^{ちゆう}
 ハ^ハ位^ゐる^るハ^ハ世^よ間^{かん}より^{より}と^とあ^あら^らぬ^ぬハ^ハ先^ま則^{すなは}徒^た然^{ぜん}な^{なり}り^り
 △[△]扱^あけ^け發^は端^{たん}よ^よつ^つも^もく^くと^と書^かか^かり^りる^るハ^ハ兩^{りやう}字^じと^とり^りて^て
 經^{きやう}号^{ごう}と^とぬ^ぬた^たと^とハ^ハ論^{ろん}語^ごの^の字^じ而^に政^{せい}又^{また}ハ^ハ詩^し經^{きやう}の^の圖^ず

雕^{てう}葛^{かく}車^{しや}の^の類^{るい}

△[△]草^{くさ}ハ^ハ草^{くさ}言^{げん}言^{げん}乎^や案^{あん}ふ^ふと^と云^いて^て下^{した}書^かれ^れず^ずなり^り漢^{かん}書^{しよ}の^の
 經^{きやう}にも^も創^{そう}造^{ぞう}と^と曰^いと^とる^るハ^ハ是^{こゝ}又^{また}草^{くさ}案^{あん}れ^れ心^{こゝろ}なり^り謙^{けん}退^{たい}
 乃^の字^じなり^り

兼好系圖

○大織冠鎌足 意美磨 清磨 諸魚 智治磨

日良磨 豐宗 好真 兼延 兼忠 兼親 兼政

兼俊 兼康 兼貞 兼茂

慈遍 大僧正 南朝詔

兼名 兼顯

兼雄 民部大輔 後五位

兼直

兼好 九兵衛佐 以俗名為法名

源氏須磨ノ卷ニツレクナルニニ
 此等ヲ本トシ言出セルモノナリ
 任ノ字ナリ打カセテノ義ナリ
 幾日モイタツラニ送レハ硯
 外ノ友ナキニヨリサレムカフノ義ナリ
 沈存中カ筆談ノ序ニ兼然ト移リ可與
 談者唯筆硯而已トナリ是筆談ナリ
 ソコモトク也ハカハ助語ナリ取リ
 義ナリ
 奇怪ナリ右何ト定リ名ナ
 モナク心ニ思ヒヨルヲ次第モナク書付六
 何トヤラン物アヤシク狂人ノ言ノ如ク思ハレ
 トナリ謙退ナリ
 万葉ニ先ノ字ヲヨミセタリ發端
 ノ處ニヲク字ナリ百人一首ニ大貳三位
 有馬出イナノサ、原風吹ハイテソヨ今忘ヤス
 此世ニ生レ出タル人分
 相形ノ願ヒ多シトナリ

はまぐさ...
 終日ノ義ナリ幾日モイタツラニ送レハ硯
 心ハ如明鏡 万境タリ來ル也
 由來モナキ事也謙退也
 是正部ノ字
 附也盡ノ字不可用

かゝる一ヤンゴトナキ天子ノ御事ナレバ
イトモカレコト詩書テ手ヲ付ヌ所尤文
章ノ手本タレバ辞多クハ却テアサ
竹園親王ノ御事ナリ梁孝王親王
三百里竹ヲ好植玉ヘリ是ヲ竹園トテ
親王ノ事ニ用ルナリ

一〇のぬ異朝ト事カ分テ本朝ト神國
三ツノカニ天神地神ヨリ人王ニクナリ玉
武ヨリ今ニ至リテ絶ス御位ナレハ尋常ノ人
ノ太子ナラヌトナリ

一〇の人職原抄執柄必蒙一座宣旨
故示一人云攝政關白ノ御事ナリ
云ニ依テ次ニ攝政關白ノ事ヲ云ヘリ

御事ナケレハツルナラガハ盛固ハ爲ニ
召連テ禁門ヲ出入スルノ隨身ノ發ル
處ハ聖德太子ノ守屋ノ邊臣ニラフハ
世玉ヒ甲斐ノ黑駒ニ乗レ落サシ玉フ
河勝一人御身ニ隨ヒ供奉ト奉リタル御事ナリ

最唱も嬋娟も書クヤサ
キ義ナリ

その子じまニ孫ノ字ヲトコト訓ハ公悪ニ其子
トセテトコトヨメ公子ノ子孫ノ字ハムトコト可別
生子トモ色子ノ生ム子ト云心ナリ

有明ノツレナクニ別ヨリ曉バカリウキモ全
此ハカリト云処モホトノ心ナリ

清火納言清原元輔カムスメ一条院ノ皇后
ニ侍テ紫式部同時ノ者ニテ詩哥ニ達セル女
ナリ清火納言カ書ケル枕草子ニイトラシ
キチラ法師ニナレタランコソ心クニケレタ
木ノハシノヤウニ思ヒタルコソイトイトラシケレ

扱兼好ハ法師ノ身トシテ何トテ如此ヲトシテ
始ニヲトシテ後ニ是文章ノ抑揚ナリ

樹下石上ノ有様ニテ吾提ヲ子カフキ身

古事記三貴トヨセリ天取可畏トモ
竹園親王ノ御事ナリ

乃末葉トウケテ親王ノ御子孫ヲ云ヘリ
無止ト書ク腹裏ナリ桐壺ニ

のん此ハありさ海ハ
なまり。タ、ウト。全人ト書ク

たまふふまじり
攝政關白ニ次ノ大臣大將達ヲ指

とらふ。それ子じまごいぬ
全人ナト給ハル人ノ子孫

てい。放埒ト書クヲチフルニ後ナリ
伊勢物語ニ其里ニイトナメイタ女

つまつ。其時ヲ得テ高ニニリホツルヲ指
美ノ字

ふぬも。自ハハ
我ナクハト自惚ノ体トモ餘取ヲハハ

あはれ。いと口たし。
法師ナリ

いぬまのハあはれ。人
槽袖ト云ク切カク世ヲ離シエヨキキサラ云

あはれ。いと口たし。
思ハルカクも実スルことそ

いぬまのハあはれ。人
益ノ字

ナニ威勢アリテ時ニアノ、ニリタル体ヨ

くヨラスト思ハルナリ

増賀 元亨釈書曰、秋増賀、平安城人

諫議大夫、橘恒平子也、十歳、父母送、殿

山與、慈惠、云、和州多武峯、僧也、多

トキ、ヒリニテ、ヒトニ名利ヲハナシテ、物ク

シキ、体ニフ、ヒケル人ナリ、爰ニ引辞ハ、鴨

長明カ、發心集ニ載リ

ひこふ、永ノ字、又一向、モ、チ、ク、伊勢物

語ニ

三ヨレ、野ノ、タムノ、カリモ、ヒ、タ、君カ、タ、ツ、ヒ、鳴

是又一向

ひこふの、是ヨリ、又法、呼ノ、コ、ラ、ホ、メ、テ、云、リ

又ヒ、タ、ス、ラ、名、利ヲ、離シ、身ヲ、安ク、樂メ、ル、際

ハ、チ、ツ、フ、フ、ホ、キ、ト、願フ、辞

人ハ、ク、ク、ノ、ヒ、シ、海、畢竟、本心ノ、コ、ラ、云、ハ、ン

爲ニ、先ツ、形ノ、上ヨリ、論シ、カ、シ

愛敬、人ヲ、愛ス、ルト、敬ト、ノ、二、也、愛ス、ク

ハ、無礼ナリ、敬ス、ク、ハ、親ハ、ナ、ル、ヨ、キ、ホ、ト、ニ

ニ、ヒ、ユ、ル、ヲ、云

論語、御黨、君在、踧踖、如也、与々、如也、大全

双峯、饒氏、曰、踧踖、敬、至也、与々、如也、君

至也、敬有餘、而愛不足、踧踖、之、愛有餘、

敬不足、慢、聖人、兩者、日、足、蓋、其、非

中、和、之、象

心、和、也、或ハ、貴人、或ハ、ウ、チ、見、ノ、美、靡、ス、公

サ、シ、ア、タ、リ、ハ、メ、テ、タ、ケ、レ、正、其、人、内、心、ハ、却、テ

ヲ、ト、ル、ト、ナ、リ

天性、性ニ、天性、ト、氣、質、ノ、性、ト、アリ、天性、ハ、渾、然

い、い、と、ハ、ス、ク、ハ、増、賀、ひ

ト、ミ、れ、ヒ、ク、ん、や、う、と、

名、変、ら、る、一、く、佛、乃、此

教、り、た、が、う、ん、を、学、ぶ

ひ、こ、ふ、此、世、捨、人、は、

中、く、あ、る、海、行、き、さ、る

色、を、ら、ん、人、ハ、さ、ら、あ、り

行、跡、ノ、立、居、フ、ル、ニ、イ、フ、コ、ラ、云

海、の、も、と、を、さ、ら、ん、も

あ、る、海、り、一、人、け、は、地、

う、ら、ひ、ひ、さ、る、味、さ、る、

愛、敬、言、葉、君、子、唯、此、言、ハ、

論、語、里、仁、曰、君、子、欲、訥、於、言、而、敏、於、行、

と、海、り、れ、れ、あ、て、あ、り、と

本、性、ハ、人、ノ、心、を、口、を、し、る、と

多、れ、志、あ、り、さ、ら、う、を、さ、れ

賢、ト、リ、賢、に、も、う、つ、さ、

全、云、心、タ、ニ、ナ、ク、

是、言、上、ラ、シ、ク、

我、言、一、等、差、降、カ、ル、人

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

あ、る、

うそ 落情ト多ク轉ノムコトナリ時

又ノ字ノ心ナリ

九條友之遠城

此幸とし

禁秘抄天子ハ以テ...

強テ色ヲ好ム古...

婦ハ五倫ノ一ツ...

人情ノ備ナレ...

付テ無道不及...

ルニ然レ初ニ...

テ終リニサリ...

書ル処此段ノ...

一章ノ心ヲ可...

ひる事あり

順徳院の禁中

ありのハ

ありと

すも

かよ

のま

ぐあ

きん

ま

きん

ま

ま

りきりされ 不定め

いさめ。せし

あつさ

とらひ

女は

何ノ思慮ナク

人ヨトヤ

タニニ依テ

奥ニ階心ヲ

トハ云ク

佛ノ道ニ

作者

後

和名集

品形

方

色好

一

一

一

一

一

一

一

四十 爰四十ト限リテ老々善好ハ心ヲ
骨隆盛肌肉滿壯五八ヲ腎氣衰髮
墮齒極六八陽氣衰ト云
然六人ハ四十以前ハ血氣旺盛ノ四十ヲ
始テ老テヲト口ヘ行ク連モ住ケテ又世ナレハ
老衰ノ姿ヲ不待壯年ノウキテ死ニタキ
ト云ノ願ナリ

死ニテ死んこそめわとる
ばかちととるふしとく
人ニ思ひタレ日よ子孫と
ひと世といさびふふのそとく物のあはれ

「見又カラニトトト五音通テ」
「中以後ナリ」
「世也」サト出交リラカキナリ
「或ハ初メノ孫子ヲモシテ成人ノ榮元末ニテ我カ余年ヲ見タキナドモ」
「在得トシ若キ時ハ堪忍アレテ老テハ多ク忍ビ」
「老衰」名形ヲモ不耻
「或ハ初メノ孫子ヲモシテ成人ノ榮元末ニテ我カ余年ヲ見タキナドモ」
「人」論語及其老也血氣既衰
「在得トシ若キ時ハ堪忍アレテ老テハ多ク忍ビ」

世の人ハ此段先段ノタハレタカ
大欲有又伊川云淫声美色易迷
誠ニ古ヨリ和漢兩朝ハ頌城頌
國ノ乱不逞聲ヲ
とハ
とく物なり。久米の仙人此物ありふ女れ
威勢アルトキハ時ノ字ナリ
元音書
久米仙入 和州上郡ノ人也入深山學仙法
食松子服薛荔一旦騰空飛過故里

世の人ハ此段先段ノタハレタカ
大欲有又伊川云淫声美色易迷
誠ニ古ヨリ和漢兩朝ハ頌城頌
國ノ乱不逞聲ヲ
とハ
とく物なり。久米の仙人此物ありふ女れ
威勢アルトキハ時ノ字ナリ
元音書
久米仙入 和州上郡ノ人也入深山學仙法
食松子服薛荔一旦騰空飛過故里

家居此つぎく。ありけりしきこもかりのやどり

とら思ふと真を物なれ。まき入ののどやうに住か

りのやうり 人生七十古来稀 十六世六身
如し然六家ヲ飾ハ無用ノトモ氏又ツキクニ
ク作支スルサモ凡ベキトナリ

まは。きハちとと名もろり。
身ニミテ愛セラレナリ

いずめいしくまきらうあし
「珍瓏ノ字ヲ文選上林賦ニキラケト訓メ注明珠光也ニガキタタラズ
木うら物ありてわ

たよりたりく。うらある
常ニアル
「體入ノ真体
「簀子ノ竹椽ナド

調度 諸道具ノト也 小学外篇孔明ノ辞ヲ
引ク其畧曰別無調度 白讀曰猶言區
畫ト

えりぬ先段ノエナラヌハ違ヘリ爰縁まほ
唐物
何ノ物カキキナリ
「古代ノ風流リテ

くしてとらとこそし
大和ノ日本ノ器物ナド
「自是悪キ家居ヲ云 全作事ニシテ多ク
まはちかくのさきまのいん

あしぬ細度とちびとまき。お裁の草木まで。
「直ニハチノサトナラヌト云ノ重衣ニ草木ノ子チユカク多クツスカヒテ
「学情ノ草木ト云ト 存レク思ハレ

のまおしはけりあせまの。あし目し
「春ノ夜ノ暗ハアヤナシ梅花多ク見ヘ子カバカクル
「真融カ廢宅ノ詩ニ咸陽王ノ火便チ成系ト カリソメ見

あしぬとまき。あし目し
「又時ノぬのけ
「あし目しとまき。あし目し

あしぬとまき。あし目し
「あし目しとまき。あし目し

あしぬとまき。あし目し
「あし目しとまき。あし目し

あしぬとまき。あし目し
「あし目しとまき。あし目し

あしぬとまき。あし目し
「あし目しとまき。あし目し

あしぬとまき。あし目し
「あし目しとまき。あし目し

あしぬとまき。あし目し
「あし目しとまき。あし目し

井猪トドランロキヲモヤサク云ナスハ新ノ旨

猪の舌もあはれおのの床と
志山ぬ七百首詩製衣新キ作

あれど。ちれ奇。あめやうにいほまぞや。

外はあはれよりきむらひかへり。

心ホソクヨリ赤上云系ノエニ依テ別ルル云

孝光天皇ノ御末紀望行カ一男後

五位上土佐守 爰ニ引奇ハ古今才九羈

旅ノ部ニアツミカリナル時道ニテヨメル

系ニル物ナラナクニ別路ノ心ホソクモホエル哉

源氏物語 采式アカ作廻ナリ爰ニ引クハ

総解ノ巻ニ物といきりしつゝゆゑに

世がうのりれをいふがをききとらひ

ヨクへまゝトナリ 源氏爰ノ奇ヲ引用

トテ物ナラナクニナル物ハナトナトナ

テセラルハ詞ライヤレク思ヒタルカトナリ

新古今 元久三年 依後鳥羽院勅定家

家隆有家通具選之

砂系松ヲへ 祝部成仲

文ノ主テ山モアラニ木葉フリ殘ル松サ學ニナリ

此奇ハ古文前集 湖明ガ詩 冬嶺秀 批

ト云詩ノ心ナリ上句ノ詞ツキクダケタルハ

ウニ聞ユルカトノ先達ノ判也

流漢判 和奇不テ寄合テ奇ノ秘判ヲ

スルヲ云ナリ

家長 尤大にち明云十代ノ孫後四位下右

馬權守家長也後鳥羽院ノ御時和奇ハ

閑園タリ此人也 閑園ハ其不ヲ記テアチ

タテラスル役也故ニ時ノ記録ツキク

奇ノものも 西行ガ奇ニ

兼好時代

支ノ奇ハ吟政セハ

詞ノ外意味深長

爰之ガ多ク

延喜五年紀交則等しちノ躬極不選ス

必ス出カチバチヨク

今世の人の。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

の奇。まゝぬ。まゝぬ

のまゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

のまゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

まゝぬ。まゝぬ。まゝぬ

徒然

孫晨 蒙求曰孫晨字元公家貧
織席為業明詩書為京兆留曹冬月無
被有葦一束暮臥朝收
二月の人の唐ノ人 是ヲヨキ忠ハミソ記
ト、メラ置ケメ我朝歌如此ノ人リ去却
在入ノヤワニ受テ後ノ世語呈不傳トナリ

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし
朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

朝のむねをみたり。あるし。此かれをいしと
たのむをこそ。あるし。せめて世よもはくえけりこ
まの人のかたりし。傳ふべし

昔ノモ思ヒ出ラレトク

梅ノ香 梅ノ花アカ又色香モ昔ニテヲナシ形見ノ春ノ夜ノ月

吹ノきらびる。夜のお月

灌佛 四月八日ニ行ハル是ヲ佛生會ト云

推古天皇ヨリ始メ九歌尊天皇俱毘藍城ニテ生レモフ時天龍水ヲツキ奉リニテ人祭ノ比加茂ノ祭也四月中ノ酉ノ日行ル

欽明天皇ヨリ始メ此目今ノ藝ノ藝ヲ是ノ人の志トシ花ヲタヨリニ向來シ人モ今

花モチリテ若葉ヲナレハ花ノ若葉ニ替見ヨリ其人志ニキトノ詞人是ヲ古今躬恒

我宿ノ花ニカテラニクル人ハチリト後ヤ志トトヨメハ人躬恒ヲ指上云凡唯タレ庄ナレ見タルガ可ク

五月あやめく 拾芥云五月四月主殿寮草内裏殿吉草蒲又弘仁式三五五月三月平且草蒲艾花ナト南殿ノ前ヲク

高の事も立久り

あうかひひぞらる

つらきさままたあつらふ

べし思ひまそそ

お母の灌佛の比奈れ

あ葉は梅涼

ゆ程了そ世のあられ

のあらしまされ

お母せまう

ふきのなれ

あう

水鏡のうくおどいびそ

きあまのあう

あられなり

六月後

七夕祭

やうく

あう

あう

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

御

ヨウキノ見エ山路へ入レ思フ人ヨホカシ成ケ

銚子 羈主

持身

人乃は世れ付空いふ身にいそ空れ名あのみ

そとよきとひいそほこいそとそとぬべれ

此段前段へカケテ見ルニ妻子眷属ナキ身ニ名残ノツレキ者ナキハツ上モ四季ノ時変スル毎ニ
名残ノヲヲレニハカト同心ナリ此世捨人ヲ長明ヲ指上云説アリノ六交記二期ノタニ
ニハウタ子ノ枕ノ上ニキハリ生涯ノ望ハ折クノ美景ニコレリ上

いそづの事ハ月るにいそあぐさむのなれ

月ニあにそ け彗端万ノウモツラモ月

見レ慰ニテ感ラ促スナリ

是ヨリ分ク願ヒラカ
あふ人の月づりたり

るま物ハあ〜といひ〜に又ひり露了そ夜

るれとあ〜そひ〜そお〜れおりにあれバ

何ハ表あ〜さん 月花ハさ〜がり 風のをそ

其中 月花 殊 各別

西行カ大形ノ物ヲ思フニ心付ル秋ノ初見
人ハ心ハけ〜れ 岩よさきそま〜く流を

時〜ワ〜 水ハ万古ヨリ東ニ流テ一

息ノ懈怠ナキ処實ニ万物ノ移リ替ル処

水ニ壁ヲルニシテ孔子ノ水ナルカクト玉ニ

モ此心ナリ

沈相日夜 此詩ハ三体詩 戴叔倫カ作ル処

絶句第三第四ノ句ナリ 叔倫唐ノ曹王

ツカエテ古卿へ去ルヲゆズ故ニ沈湘ノ水ノ

毎百東ニ流去ラウラヤニ我ハ如此古卿ヲ思

ヒ愁ルニ水ハ何ノ心モナク我愁ラナクサメテ

火クモ止ルヲ無シト水ニ向テ作ル処ナリ

そびて魚鳥と〜れ〜ふたの〜と〜る金

嵇康 文選四十三 嵇康与山濤 逸文書

云遊山次 觀魚鳥心甚樂之 行

作吏此更便 寔安能捨其所樂而從

其所懼哉 嵇康字叔夜竹林七賢一人

漁父 嵇康吟 沢畔

嵇康

嵇康

西時日夜ノ替リモナク
日東流去 愁人のた

りにとまふるり 時心

せどと〜 詩と〜 あり

愁康も山〜 あり

く〜 草まきよ〜 あり

さ〜 あり〜 あり

徒然

づりふあぐさむしるひあしどー

人きく 玄賓僧都ノ奇ニツ國ハ水草キヨコトシゲニ都ノ内ハ住ヌセリ 爰ニ此辞ヲ用
トツ國ハ外國ノ爰ニ外ニ上ノ用子庄彼ノ奇ノ水草キヨコト云ニテ洛陽ヲ推レタル外國ノ心アリ

何事しつるまき世のまきまきいふやうな事
事ト大至極ニノ後ニ

りやくやくそならゆわれ彼木の石のたぐ
兼好時代ハ未代ト云戰國ト云

つらまのも古代のすざこ
人ニ虚夸ニシテ實アル者稀也故ニ古昔ヲ
レタヒテ云ヘリ

そわしとるぬれ文のこと系をむしれ
論語觚不觚孔子歎息同
古代のすざこ

古どむいさきさき初もちうさ
文上ヲ受テノニ三限ヲカ
是ヨリ詞ノアレクニラ云リ

なりもてゆくあれいへ車ひげよ火くお
是ヨリ詞ノアレクニラ云リ

ととそいひまを今やうの人ばもてあきぶ
是ヨリ詞ノアレクニラ云リ

きあもといふまの寮の人救そといふまを
寮ノ供奉スルヲ云ナリ

主ぬ寮 寮ハ主ぬの官人ノツムル所
主殿寮ト云時ハ主ぬノ下司ヒヨモル之此
官ノ職ハ夜ノ行幸ニ火ヲトモスヲ司ル

人救そ 右行幸ノ時燭ヲ取テ主殿
寮ノ供奉スルヲ云ナリ

そいふまをさうろと
天子ノ御度ニサハレノ字ヲ畧ノ講席ト云ナリ

あやせま
天子ノ御度ニサハレノ字ヲ畧ノ講席ト云ナリ

村とらへるまれ世と
天子ノ御度ニサハレノ字ヲ畧ノ講席ト云ナリ

いどあは九重のうさび
天子ノ御度ニサハレノ字ヲ畧ノ講席ト云ナリ

き家ありさぬそ世に
天子ノ御度ニサハレノ字ヲ畧ノ講席ト云ナリ

うぶそれをのさ
天子ノ御度ニサハレノ字ヲ畧ノ講席ト云ナリ

露臺 御殿ノ間ノ名ナリ露ノ臺ト云
天子ノ御度ニサハレノ字ヲ畧ノ講席ト云ナリ

五月吉日ヲ撰テ東大寺奥
福寺延曆寺園誠寺四ヶノ僧尼系
リテ行フ一糸院ノ御宇ヨリ始ニル
たとらへる 前ノ段ヲ承テ何事モ未代
スタレ行モ移九重ト内裡ノウラ云出ス
九重 九八陽ノ数ナリ天子ハ陽ニ象ル故ニ
九重ニカヨミテ天子ヲ守護ニ奉ルナリ
楚辞ニ毛君ノ門ハ以九重ヲ朱注ニ天子在九門去
世ト云凡 世ヲ離レテ尊キト云心
露臺 御殿ノ間ノ名ナリ露ノ臺ト云

まどいそてなごし 潔紙ちどむるもたけし ちどて

此社こそすてごさかぬあしき物もあつりる

森はききもたけあぬりむごさかぬあしき物もあつりる

またゆきけりるまじきかぬもまじき物もあつりる

伊勢。賀茂。春日。平野。住吉。三輪。貴布祢。吉田。大原野。

松尾梅宮

伊勢 天照太神ノ御廟也。度會郡宇治ノ御五十鈴川上ノ

春日 四所明神ナリ大和國三笠山ノ跡ニ垂テマ

住吉 四座出出現レ至ノ三神也。日向國橋ノ檣ノ原ノ秋ニ至リ時海底

三輪 大和國城上郡アリ大神大物主神也

吉田 四座此社春日明神ヲ勧請申也山城國愛宕郡洛陽ノ東山ニ立セマ

大原野 同春日山城國葛野郡アリ此山ヲ小塩ト申也

梅宮 七社山城國葛野ノ郡アリ

右神社ノ後田ノ抄。委細記ニ又ハ委細キノハ神道家ナラズハ難

定ニ又川ナリ故世ノ変ニカルルニ多ク

世ノ中八何方常ニ飛鳥川ノ昨日今日ノ願

其時ナレタラモイタラニ夫ナリ

あつりし人すぬぬのしと成かつぬねあつりる

らたぬりぬ。桃李物もあつりる

桃李物もあつりる

兼好見及ラ処々如此。登リテ昔シ又ナリ

又ナリ

史記李廣傳。登桃李不言。梅凡

下自成蹊。又山陰詩。桃李不言。梅凡

京極及法成寺。主三御堂ノ園自道長

住五七二ノナリ

京極殿 拾芥云土御内、南東極西東

内院是ナリ

法成寺 五条川原ニアリ

御堂殿 岡白道長公法名道相好御堂

造立アル故ニ世ニ御堂云ト云

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

阿弥陀ヲ安置セラルニ依名

丈六佛 一丈六尺ノ佛ヲ九品淨土ガタリ

九体安置セラル

行成 謙徳の孫義孝子也道風佐理

兼行 延久ノ比佳大和守南家ノ人也能云

能益相兼シ人ナリ

法成寺ノ額

法成寺ノ額

法成寺ノ額

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺なるを志す

法成寺

法成寺

未ノイヲ思惟スルハシヨカナルゾト

風も吹あへば古今幾

桜花よりチリヌモホホ入心ゾ風モ吹アヘ

小町

色ニテウツク物世市人ノ心ゾ花ゾアリキ

此二首ノ詞ニテ生世セシ者

○叔爰ノ心ハ花ハ風故ウツク地ナカク心ハ風

子モ昨日ト睦キ申モ今日ハ何ゾ障ラテ

上ハニ為ニウツク人ノ心ハ六ヘリ花ニ上ニ時

契リレ女ナドヲコメテ云

なほひそあは人の心ゾ花ゾアリキ

我世外或契レ全何故障アリテ逢ヌカ又ハ心ウツク中絶ルヌカ又ハ世界ハ行別レタルヲ障リテ

あれはあはれさあはれさあはれさあはれ

ちまもれはらまじりて

きく人もありらん

川院の百首の奇乃中

権大納言言公安勸進爰引奇モ公安ノ

奇ノ董ノ題ナリ此奇モ七タル人心カカリ

ニメル奇ナハ引合ヌ

あまうらりつぐれゆがのすまれのこしてさび

しきさきさきさきさきさきさき

御四ゆづり此巻をたこ

此時ノ節會也 讓國讓位ト云ナリ

劍 宝劔ナリ 天牟羅雲劔 又草薙ノ劔也

壺 八坂瓊曲也

内侍所 八咫神鏡ナリ

右三種ノ神器ト申テ新帝ハ渡サル

此三種ノ神物ハ諸抄 御我々 委々其

家ノ口傳也ト云

このりの 此奇ハ朗詠

トモリクモニヤ心ス成春斗朝キメスナ

トモリ本奇ニメノ御製ナルベ

トノモリハ主殿寮ノまき 御乃ノ掃除ヲ

職ル故

風もあまきあへばうけり

人の心は花よあれり

月と思へあわれと

よの葉ごとくはまじりぬもの

我世の初のみありゆく

ちまもれはらまじりて

きく人もありらん

川院の百首の奇乃中

昔と契レ時云カワセト辞ノケルヲ思

古今主殿寮ノまき人ヲツラカスカク云ニテ

全ノ目トシテ御位ト云

是レ園記ナルモカ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

此レ位ナリ

不院ノ御ハス餘所ヲ
當今ノ

今ノ世のこゝけきくにゆきられて院よまのる人も
あまそとびーけある。うかちりうそ人の心もあ

此段王世ノ更ニ易ルヲ云々ケテ叔亦チ
カルヲミダトスル不肝要之凡ノ人威勢アル
人ヲ誣利ノ有ル方ノ向フハ常ナ庄ノハ皆
我身ノ爲ナク如此ナル時分人ノ更ニ愛ハラハ
ニトス

諒簡ノ二字各々難知先諒言トヨム簡モダ
スレハ天子四海政ヲゴトモダレテキコト又上云
心ナレキカ

涉簾とくけて布の色帽額ノ木ノ上ニ敷カのり。あ

とろそろよとふ人のさうぞく。本刀平燃まで。其橋を

るそゆいりま

これぬき

諒簡の年ぐり表あつる

あ。いん此布所のさぬ

ちと。板敷とさげありれ

あ。いん此布所のさぬ

ちと。板敷とさげありれ

志のよねいぶ。うらぶよとさう。いん此布所のさぬ

とぞせんうさおれ。人志のゆりて故あざき夜のいん

ひよ。あはとたれをそくとりあそめ。其橋を

たひふらうごちと屋りする中よ。まき人のあま

ひあまき。いん此布所のさぬ

とれ。は比あふ人の文にえ。いん此布所のさぬ

ま。いんの年ありうんとあふ表あつる。いん此布所のさぬ

い。あまき。いん此布所のさぬ

は段王前ノ諒簡ト云ニ續テ。いん此布所のさぬ

人のかまゆ。いん此布所のさぬ

中隊のいん此布所のさぬ

徒然

三

西十九日ノ間ハ良善ノ爲ニ山田ノ寺ナド移リ
ちとにうひろひて。後あしくせびきふよ。あまうこあひ

わそ。後れまこたいとあふふふあふふた。日較の
「春馬止」 西十九日ノ佛事ナド

けあうたぐひよいすまもあく。我うこげよ。おひ
「夏ノ早うるハタナフハキ絶ナシ」 西十九日ヲ云

まきあうてわちりくくはよひきあられぬ。おひ
「山里ハ人多ク集リ作善ニ際ナク女ガ紛レ方モアリ」

ふりまてぞさうにふりまきまふおひ
「此ノ残ルヲ祝メ詞ヲ忌ナリ」

け事ハあれうこあふたあいにむるこぞる
「是ヨリ死スルヲ恐レ」

いふあそがらうれあうにぬらとふらぬうそま
「或ハ神ノ才君臣妹ガナラ」

あうこ アララノロシナト云詞之夫真
「或ハ神ノ才君臣妹ガナラ」

にいあふと。ふる者へ
「或ハ神ノ才君臣妹ガナラ」

いじちるし。ワキヨリ愁ハ人ヲ思テ死
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

ぬらわ。あうこあうてうらもひらひぬ
「死骸ヲニ」

とあふの中よあさめてさるふさ日づり
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

ば福あくとあも昔ひ。本れあう理て。文れ
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

の月れまそこぬらうけ。思ひ出てま
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

人あうん海とあうあ。そし又程なくうせ
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

あうてあうげらけすあく。あふれあは
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

はれらあうまうさぬれが。うまの人と名
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

名ういあう。白氏文集 古墓何代人
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

不知姓与名化爲路傍土草 春草生
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

ば。氣れあうのあふれ
「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

「其北ニ多ク際ホトニハスカト疑テ下ヲ云

朝又へぞそなぐまねる人のいもあつ時どねんとき

ひまきつてうらふさゆよんあうそ今さうくわんを

ふふ人もあまあべれどあけみくしくもた人

ふふもそたけゆるうとれた人のうらとげうる半る

とひひるさうしとあひつまぬべ

此段友明ノ交リ末ニ敬ヲヨブル依テ必ス絶ニ交ヲ故ニ礼儀ヲ以テ可對文事ヲ云テ又礼と云却テ親ニテケレハ

礼アル内ニ和ル処ヲ以テ相交トノ教ナリ 礼記ニ礼勝則離樂勝則流ト云ト同シ

名利ノつらられて志何かる

いふあく。一生とらるしる

こそ成るるなれ財を得を

とバ身をとまのるにまじり。

カヨハ貧シクテ心ノ樂ニツイツ

害とひ 文選 不懷宝以買害 不飭表

杜北テラ不如生前一枯ノ酒

金ヲツミテ北手ノ星とツカユルホト有トテ

大らるる 范曾公詩肥馬衣輕裘揚

過商里 雖得市童憐 還為識者鄙

金ハ山トシテ 莊子天地篇藏金於山藏

玉於淵 文選東都賦捐金於山沉玉

馬。金玉れら下もあじん人うそとらるなり

とそらるべき。金ハ山にすて玉ハ淵に

ゆらふもそたけゆるうとれた人のうらとげうる半る

友上云説六西心何ッ事ノナル時

「常ト替テテ」 隔心ヲスレ体ナリ

常々心安ク云親メハ今サラ如此隔心ニ見ルイカト云人モアルケル

論語ニ且安平仲善与入交ダテ而敬ト孔子モ云リ

友是ヨリ常々ハ疎キ人ハ心安ク打トケタモ善トナリ

東西急キ南北走リテ

トノ身ヲ静ニセリ是ヨリ己ノ本意ヲ述

ハタリ

カヨハ貧シクテ心ノ樂ニツイツ

害とひ 文選 不懷宝以買害 不飭表

杜北テラ不如生前一枯ノ酒

金ヲツミテ北手ノ星とツカユルホト有トテ

大らるる 范曾公詩肥馬衣輕裘揚

過商里 雖得市童憐 還為識者鄙

金ハ山トシテ 莊子天地篇藏金於山藏

玉於淵 文選東都賦捐金於山沉玉

馬。金玉れら下もあじん人うそとらるなり

とそらるべき。金ハ山にすて玉ハ淵に

ゆらふもそたけゆるうとれた人のうらとげうる半る

うつれぬ名 爰に六名ありツテ章ノ内ニ

利ヲ求ルハスグレテ愚シク人ノト云ニ次ニ名ヲ求

ト云又云ハリ 白氏文集ニ

龍門原上土埋骨ノ不埋名ヲ

とちきことしむ。されらるるもとや云へま。とちきことしむ。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

るがとせよ。あはれ。位ちるん

はり。あへま。位ちるん

とちきことしむ。されらるるもとや云へま。とちきことしむ。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

モ非ル人モ共ニ世ニ残ラズ。是ヲ願モ皆徳ヲ

ナリ也

世よすれらるるも。あはれ。位ちるん

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

人のまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

つこなきも家よまれ。時よあへちき位よのむ。

たつりともまじりあもる。いりり。賢人聖人。

云カ、自然ノ良智ニ非ス

煩惱 智度論曰、煩惱者能令心煩作惱云云

可不可

可不可 莊子齊物論曰、唯可不可、不可不可、不可不可、又曰、唯可不可、不可不可、不可不可、

是善惡、是非、可不可、然不然、曲直、邪正、一切世間

物論ヲ有スルノ意ナリ

然レ可善不可不善ナリ一條ト齊ク同ナリ

ト人 莊子ノ詞ヲ假テ論ス

功聖人無名

功 功、徳ヲ示シテ、外ニシテ、積リ、其ノ功ヲ示ク

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

上人法然上人ノ念佛の時、睡チフリもきされて、物モノとまき

法然 源空也。姓、漆間氏。美作國鞆トノ人

父、時國母、春氏。長承二年四月七日生年

十五、後、延曆寺功德院、皇圓、判落受戒ス

目メのさあ、人ニ往リ 觀無量壽經曰、觀除

睡時、恒憶此ノ章ヲ云

念佛ノ時、睡ノ催ス、念佛未熟、心ニ依テ、我心

ト念佛ト合ス、上ニ、イカテ睡眠氣ガシバ、目

醒ルホト、行ヲ觀念セヨト示サレ、者也

迷者ハ十方億土禪ニ者、去此不遠ノ心トナリ

かりといれり。是もたうとひあり

も念佛すれ。生生のともいれり。是もまたは

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

功 功、世ヲ知ラズ、名ヲ守ルニ非ス

七段 言人の白淨土ノ教上品中品下品ノ人ノ氣根應示_レリ其ノ上中下ノ三品當テ見_レ可_レト云
ヘリ先ツ念佛ト我心ト合スルヤウニト示サルハ上品ノ人又次ニ疑ナカシモト示ルハ中品ノ人對_シテ
又次ニ疑ナカシモ往生スト教ヘラレ_レハ下品ノ人ニ應_メテ子_レ愛_メノミ_テ別テ示_レテ兼好_クト云
美セ_レトナリ此ノ説是_レナルヤ不_レト云_レ期_ニ智者_ト

因_テ後_ニ必_ズ何_レノ入道ト_シテ_モや_レ云_レ其_レノ_レ心_ノひ_とめ_{。か_レら}

う_レと_シて_{。人_ノあ_らま_りこ_のひ_とめ_{。は_レひ_と}}

め_レて_{。果_シて_{。あ_らま_りこ_のひ_とめ_{。は_レひ_と}}}

さ_らに_{。あ_らま_りこ_のひ_とめ_{。は_レひ_と}}

ら_{。あ_らま_りこ_のひ_とめ_{。は_レひ_と}}

此段ハ形ヨキ娘ヲ殊ニ人ノマタ云ワタリケルヲ入道常ニ替リタル女子トテ嫁ヲ赦_サル_ルヲ廢
美ノ書ケリ凡ソ仕官ヲ望ミ未_レ嫁_ル或_ハ病アル方或_ハ心ノ癖_ハカ_レ形_ノニ_テキ_レト_シテ人ヲ頼_ミ
サ_レト_シテ偽_リカガリテ終_ニ其身_ノ耻_ヲ求_メ且_ツ先祖_ノ名_ヲ極_ス者_世舉_テ皆_然リ然_レラ_テ尋_常
替_リタル_ヲアリ_トテ嫁_ヲユル_ヲ又_ハ入道_ノ心_尤至_極セリ

徒然草 諸解卷之一終

